

あさおの町会・自治会 vol.47

麻生区にある125の町会・自治会をご紹介します。



向原町会 会長 古里 兎夫

向原町会は創立37年を超えており、最近1,000世帯を超えた比較的大きな町会です。元々区画整理事業の進展に伴い、細山町会から分離独立したという縁もあり、近隣町会との親和性も強い地域です。

町会エリア内は90%以上が戸建て住宅で、大型マンションも1棟ありますが管理組合で町会に加入いただいております。町会の組織化という点では、悩みの少ない運営ができています。

ここ3年は新型コロナウイルス感染症の影響で、令和5年の総会まで書面評決で実施するなど、普段の活動ができない状態が続いていましたが、令和5年度はすべて通常活動を再開。まずは『向原まつり』を9月30日(土)に実施しました。久しぶりのお祭りで四苦八苦しながらでしたが、子ども神輿、大人神輿に山車と繰り出して、会場ではお店も大賑わい

で、会員の皆さんも子どもたちも大喜びで参加していました。



向原まつり

12月10日(日)は餅つき大会。これも900パック分の餅つきを役員総出で行いました。役員の高齢化が進み、つき切れるか不安もありましたが、こちら盛り上がりしました。

1月に入ると、金程富士見会・金程町会とのどんど焼きです。竹の切り出しから歳の神の組み上げまでを1月6日(土)と7日(日)で行い、14日(日)が焚き上げです。高さ5mを超える大きな歳の神は



餅つき大会

三町会の誇りであり、会場となる金程小学校の児童たちも参加して作業を進めます。完成翌日からは子どもたちが歳の神の中に入って、学習活動を行います。卒業文集の思い出にもずいぶん取り上げられています。

こうした行事に加え、防犯パトロールやスタンドパイプを使った放水訓練など

も実施しています。さらに春と秋の町内一斉清掃には300人を超える会員が参加し、役員は5台の草刈り機を駆使して、大きな公園やサツキの植え込みの刈り込みなどを行い、きれいなまちづくりを進めています。エリア内の二つの公園では花いっぱい運動として花壇整備も年4回実施しています。

他の町会と同じように地域の高齢化や空き家の発生など、地域の安全・安心に課題も見えはじめていますが、比較的若い世帯も多く、小学校も各学年3クラスあり、地域の活力をまだまだ感じています。30人を超える町会役員は現役で働いている人も多く、それなりに若い世代も参加した活動ができています。

何よりも静かで、緑豊かな、安心して住めるまちづくり、会員が親睦できるまちづくりを目指して、これからも活動を進めていきたいと考えています。

東百合丘町会 会長 松澤 武雄

今から42年前、川崎市の行政区再編に伴う多摩区からの分区により麻生区が誕生したところから、東百合丘の歴史が始まりました。東百合丘町会エリアは東百合丘1丁目と2丁目の一部と3丁目の全域、そして4丁目の一部です。加入世帯数はここ10年で100世帯が増え、現在732世帯になっています。

町会エリアには長沢小学校、長沢中学校、田園調布学園大学、東百合丘子ども文化センターがあり、平瀬川とほどよい緑に満たされた、豊かな居住環境の町です。また現在、エリア内ではリニア中央新幹線と横浜市高速鉄道3号線の工事が行われており、早期完成が期待されています。

当会では、会の推薦を受けた5人の民生委員児童委員、1人のスポーツ推進委員、2人の青少年指導員、3人の廃棄物減量指導員が地域で活躍しています。ま

た外郭団体の老人クラブ『絆会』と連携を密にしています。お年寄りの皆様は健康体操、カラオケ、麻雀、折り紙教室などの活動を通して健康づくりに励み、「長寿日本一の麻生」の一役を担っていると思います。

町会の役員は会長1人、副会長3人、会計1人、会計監査2人、その他に総務部3人、広報部2人、自主防災部/避難所運営会議2人、防犯部1人です。ここに加えて14人の理事とともに月1回理事会を開催しています。理事会では、計画している催しの次第や会員から寄せられた意見などについて検討・審議を行っています。また、この理事会には定期的に民生委員児童委員に同席してもらい、地域の子もたちからお年寄りまでの援助について、個人情報の取り扱いに注意を払いながら検討しています。

また、「安全安心なまちづくり」として

月に2回、長沢小学校通学路を中心に防犯パトロールを行い、犯罪の抑止に努めて16年ほどになります。

当会では、年間を通しての大きなイベントとして納涼盆踊り大会・「わんわんパトロール」の登録会とフリーマーケットの同時開催・どんど焼き・防災教室を実施しており皆様に喜ばれています。昨年の12月3日(日)に実施したフリーマーケットには地域の20を超える個人・団体が出店しました。当日は「わんわんパトロール」の登録会を同時開催し、地元野菜とお花の販売のコラボもありたくさんの方で賑わいました。

これらのイベントを通して地域の繋がりが、親睦を図るとともに未加入会員への加入促進を図っております。町会は相互扶助の精神で組織されています。隣近所のお付き合いが希薄になっている昨今、町会主催のイベントなどを通して交

流と親睦を図っていただけることを願っております。



納涼盆踊り大会



フリーマーケット

あさお区内地域紹介

■山口台自治会のどんど焼き

山口台自治会 会長 渡辺 孝一
山口台自治会は1987(昭和62)年12月に発足しました。かつてこの地は山林、田畑と小世帯の住民で構成されていましたが、宅地開発時に従来の呼名山口谷戸との違いから、「山口台」とされ現在に至っています。

どんど焼きは住民間の交流を深める目的で、1994(平成6)年1月に第1回が開催されました。正月飾りや書初め、だるまなどが、竹やそだぎなどで組み込まれます。

開催場所は市有地の空地からスタートし、建物が建つと隣の空地へ移りましたが、そこも使えなくなり検討した結果、現在の麻生中学校校庭を借りることになりました。周囲に住宅があり、煙や粉塵が飛散することから、風の強さ、風向きに神経を使います。

従来は、役員・理事で団子を400個程



度作り会員の皆さんへ提供しましたが、近年は新型コロナウイルス感染症の影響で団子の提供はやめ、お焚き上げだけを実施していました。感染症が第5類に移行されたため、令和6年のどんど焼きから団子提供を復活しました。開催時は部活後の中学生や多くの会員の皆さんが参加してくれます。1月13日(土)に実施したもので30回を迎えています。

どんど焼きは、五穀豊穰、無病息災、家内安全、平和など多くの人の願いを込めて天高く昇ります。規模は小さくとも、今後も継続していけるよう努めたいと思います。

■栗木町内会のどんど焼き

栗木町内会 会長 仲林 久夫
栗木町内会のどんど焼きは、新型コロナウイルス感染症の影響で令和3年から令和5年にわたり簡素化した「お焚き上げ」で開催していましたが、関係者で熟慮の結果、令和6年から元の「どんど焼き」を復活することになりました。

4年ぶりのどんど焼き開催・運営にあたって、象徴であるやぐら作りを初めて経験する若い新入りの青壮年部の部員はもとより、ベテラン部員たちも数年のブランクがあるため、予期せぬトラブルに備えた、先を読む行動で終始安全に作業を進めることができました。

また、どんど焼きに欠かせない団子については、来場実績のある参加者約200人分を用意するとともに、団子を刺す「しの竹」も参加者同数分を山林から切り出し、会場内でケガなどしないよう先端部を安全加工するなどの処置を施してその時を待ちます。

儀式は宮司による祝詞奏上、参加者全員へのお祓い後に点火します。点火



2020(令和2)年のどんど焼き

された小さな火はやがて巨大な炎でやぐらを飲み込み、最大のクライマックス! 消防部による鎮火作業のあと、いよいよ参加の皆様お待ちかねのお団子焼きで無病息災を祈りました。

このような当たり前の光景が戻ってきたことに、私たち栗木町内会としては今後、持続可能なまちの催し物として定着させたいと思っています。